

産-59

全身麻酔下で化粧除角術を行った黒毛和種3症例

○小屋原 俊¹⁾ 佐野忠士²⁾ 石川友駿²⁾ 山下和人²⁾ 鈴木一由¹⁾

1) 酪農大生産動物医療学 2) 酪農大伴侶動物医療学

【はじめに】化粧除角術は除角痕を皮膚の閉鎖により術部を覆い隠すことで処置後の外貌を損なわず、主に共進会に出展を予定している牛に対して適用される。しかし、本術式は角除去や広範な皮膚切開により激しい疼痛と術後炎症を伴う手術であるため、無麻酔はもちろん局所麻酔下での実施を法律的に禁じている国もある。今回、共進会に出展予定の黒毛和種牛3頭に動物福祉を考慮して全身麻酔下で化粧除角術を実施したのでその概要を報告する。

【症例】症例牛は黒毛和種、11~13カ月齢、体重320~500 kgであった。最初の2症例は本学動物医療センター、1症例は麻酔機材を農場に搬入して手術を実施した。麻酔前投薬としてキシラジン0.1 mg/kg、IMで鎮静を行い、3 mg/kg、IVのプロポフォールで麻酔導入した。気管チューブ挿管後、50%酸素-50%セボフルラン吸乳麻酔により麻酔維持した。化粧除角術は伏臥位で常法により施術した。すなわち、角基部周囲の皮膚を切開および剥離して角基部を露出させ、角基部をGigli線鋸を用いて除角した後、骨ノミとハンマーを用いて粗造な角断面を平坦に整えた。その後、創縁を単結紮縫合で閉鎖した。平均麻酔時間および手術時間は132分(98分~195分)、97分(74分~130分)であった。術後の平均回復時間は38分(24分~65分)であった。術後の感染予防および疼痛管理として3日間、懸濁水性プロカインペニシリンG(600万単位、IM)とフルニキシンメグルミン(2 mg/kg、IV)を投薬し、術後14日目に抜糸した。また、3症例いずれも術後の元気、食欲に問題は生じなかった。3頭中1頭は先天性心疾患(心室中隔欠損)のため当該手術とは関係なく廃用されたが、他2頭は術後半年を経過した現在も一般状態や増体に問題はなく術部も綺麗に整っていた。

【考察】全身麻酔下での化粧除角術は従来の局所麻酔下での施術と比較して牛への苦痛を大幅に軽減することができ、動物福祉に合致した除角法であると言える。また、全身麻酔下での化粧除角術では疼痛や炎症による食欲不振を最小限にとどめることにより感染を含む術後管理上の問題を生じず、その後の増体も安定することが予想できるために共進会用牛に対する除角法として安全かつ有用であると思われる。